



**免疫学・ワクチン学研究、予防医学研究等を戦略的に強化し、成果の社会実装に繋げるとともに、千葉大学全体の研究力強化を目指す！  
地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）に採択**

国立大学法人千葉大学（千葉大学長代行：中谷 晴昭）は、令和5年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（以下、「本事業」）に採択されました（国公立69大学が申請し、12大学が採択）。

本事業は、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした経営戦略の下、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力強化を図る環境整備を支援することにより、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的としています。令和4年度第2次補正予算により、本事業及び「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」（以下、「施設整備事業」）が実施され、**本学は、本年4月に施設整備事業にも採択されています。**

本学は、本事業及び施設整備事業により、**免疫学・ワクチン学研究、予防医学研究等を戦略的に強化し、成果の社会実装に繋げるとともに、それらの取組を学内に横展開します。**

**【千葉大学 提案概要】**

“世界に冠たる千葉大学へ”という高い目標に基づく「10年後の大学ビジョン」“強みや特色ある研究領域において、学び、研究し、イノベーションを創出する場として、国内外の学生や研究者に選ばれる大学”の実現に向け、世界的卓越性を追求し、以下の(i)を重点的に強化するとともに、(i)(ii)のバイオ×健康領域のイノベーション創出を加速します。次に、それらの取組を横展開し、(iii)、(iv)を強化します。さらに、活動を学内に横展開し、**本学全体の中長期的な発展を目指します。**

**「10年後の大学ビジョン」における強みや特色ある研究領域**

- (i)免疫学・ワクチン学研究、(ii)予防医学研究、(iii)地球観測ビッグデータ統合解析研究、(iv)ニュートリノが拓くマルチメッセンジャー天文学研究

**主な具体的取組** <図1参照>

- データサイエンスコア(DSC)の設置 <図2参照>
- ヒト免疫疾患治療研究・開発センター(cCHID)の設置 <図2参照>
- 次世代 in vivo 研究探索センター(cNIVR)の設置 <図2参照>
- 千葉大学を核としたイノベーション・エコシステムの構築（本学出資の株式会社の設立等）
- 以下の参画機関をはじめとする国内外の大学・研究機関との連携の深化・拡大
- 研究者及び研究支援人材の育成やキャリアパスの構築等

**参画機関**

東京大学、筑波大学、東京理科大学 生命医科学研究所、理化学研究所、量子科学技術研究開発機構  
University of California San Diego(UCSD)  
Center for Mucosal Immunology, Allergy and Vaccines(cMAV)  
Center for Microbiome Innovation(CMI)

**施設整備事業** 柏の葉キャンパスに「千葉大学 Biohealth Open Innovation Hub」を新築

**【地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の資料】** URL : <https://www.jsps.go.jp/j-chukaku/>

【本件に関するお問い合わせ先】

千葉大学 広報室

電話：043-290-2018 E-mail : [koho-press@chiba-u.jp](mailto:koho-press@chiba-u.jp)

<図1>

研究力が向上した10年後の大学ビジョン

千葉大学の提案内容の概要

“(i)～(iv)の研究領域において、学び、研究し、イノベーションを創出する場として、国内外の学生や研究者に選ばれる大学”となる。  
【本学の強みや特色ある研究領域】 (i)免疫学・ワクチン学研究、(ii)予防医学研究、(iii)地球観測ビッグデータ統合解析研究  
(iv)ニュートリノが拓くマルチメッセンジャー天文学研究

研究力の向上戦略 ～概要～

- ◆ 世界的卓越性を追求し、(i)領域を重点的に強化するとともに、「千葉大学 Biohealth Open Innovation Hub」(地域中核・特色ある研究大学施設整備事業により採択)を活用し、(i)(ii)のバイオ×健康領域のイノベーション創出を加速する。
- ◆ (i)のグッドプラクティス等を横展開し、6年目以降に(iii)、(iv)領域を強化する。さらに、学内に横展開し、全学の中長期的な発展を目指す。

バックキャストで設定された主な課題

- ① DXが加速する中、先端技術・インフラと最先端研究をつなぐ体制・データサイエンス(DS)人材が必要
- ② 基礎研究から治験まで一貫通貫したサポート体制・研究基盤、最先端技術や臨床検体へのアクセス体制が必要
- ③ 動物実験の代替法の開発、動物実験の最先端基盤が必要
- ④ 研究成果実装のため、柔軟なマネジメントが可能な学外組織が必要
- ⑤ 研究者と研究支援人材が車の両輪として活躍する環境整備が必要

上記課題①～⑤等に対応

10年後の大学ビジョンの実現に至るまでの主なプロセス・研究力向上計画

学内特区 ①対応	学内特区 ②対応	③対応	学外に設置 ④対応	戦略全般に対応
<b>データサイエンスコア(DSC)の設置</b> ● 柔軟な人事制度(企業とのクローブ、民間レベルの給与、ジョブ型雇用、学位取得サポート等)導入 ● 本学の最先端研究に参画 ● 2024年度新設の情報・DS学府との連携、異分野・オープン学内外交流 (i)⇒(ii)⇒(iii)(iv)⇒全学展開	<b>ヒト免疫疾患治療研究・開発センター(cCHID)の設置</b> <b>NIH CHIをベンチマーク 千葉大モデルの構築</b> ● 臨床研究中核病院のメリット、AI基盤等を活用 ● 最先端技術リソース提供、管理運営外部委託 (i)⇒全学提供体制、グッドプラクティス横展開	<b>次世代in vivo研究探索センター(cNIVR)の設置</b> <b>NIH NCATSをベンチマーク</b> ● 動物実験の代替法開発、in vitro研究、最先端基盤構築を並行して推進 ● 治療学AI研究センター、理研・理科大の強みを活用 (i)⇒全学へ動物モデル提供、グッドプラクティス横展開	<b>千葉大学を核としたイノベーション・エコシステムの構築</b> ● 本学出資の株式会社の設立 (i)⇒対象拡大⇒全学展開 ● 地域ベンチャー投資ファンドへのLP出資 全学対象 ● JST/OPERA事業の成果の活用・発展 (ii)⇒グッドプラクティス横展開	<b>国内外の大学・研究機関との連携の深化・拡大</b> ● UCSDとの連携深化、ダブル・ジョイントディグリーなど若手研究者の育成強化 ● トロント大、コーネル大等との組織間連携構築 ● 東大、筑波大、理科大、理研、QSTの強みを活用 (i)⇒グッドプラクティス横展開

研究者及び研究支援人材の育成やキャリアパスの構築等 ⑤対応

【研究者】教育・研究に重きを置く教員の役割分化、若手研究者の管理・運営実務負担軽減、十分な研究スペース提供など、研究に専念できる研究環境整備  
【研究支援人材】教育職や事務職に分類されない「高度特定専門員」を設置、多様な専門人材に適用。能力・実績等を踏まえた処遇、キャリアアップ制度等構築

主なアウトプット・アウトカム指標

- 世界的卓越性を追求する(i)(iii)(iv)について、TOP10%論文率国内大学トップ、TOP10%論文数国内大学トップレベル等を目指す(研究の質・量↑)。
- イノベーション創出を目指す(i)(ii)(iii)について、粘膜ワクチン上市、「健康まちづくり」、気象制御など、研究成果の社会実装をアウトカム指標とする。

<図2>

